

ユニセフ 『子どもたちのための前進 2015』 報告書

原題 : Progress for Children2015: Beyond Averages: Learning from MDG s

分野別のファクト一覧

■栄養

◆前進

- 1990 年から 2015 年までの間に、世界の 5 歳未満児の低体重率と発育阻害率はそれぞれ 42% と 41% 減少した。
- 2000 年には 5 歳未満児の 3 人にひとりが発育阻害に苦しんでいたが、2013 年までにその人数が 4 人にひとりになった。

◆しかし依然として…

- 5 歳未満の子どもの死因の半数近くが栄養不良に関連している。
- 農村部の 5 歳未満の子どもは、都市部の 5 歳未満の子どもと比べ、発育阻害に陥る可能性が 2 倍高い。
- 生後半年未満の子どもの約 5 人に 3 人 (61%) が完全母乳で育てられていない。

◆このままでは…

- 現在の減少のペースのままでは、2030 年に依然として 1 億 1,900 万人の 5 歳未満の子どもが発育阻害の状態にあると予測される。

■貧困

◆前進

- 1990 年から、極度の貧困状態で暮らす人々が 7 億 2,100 万人減少した。

◆しかし依然として…

- 10 億人以上の人々が極度の貧困状態で暮らす。その大半が南アジアとサハラ以南のアフリカの人々。極度の貧困状態で暮らす人々の 78% が農村部で暮らす。
- 世界人口の 3 分の 1 近くを子どもが占めるにもかかわらず、極度の貧困状態で暮らす人のうち、半数近く (47%) の 5 億 6,900 万人が (18 歳未満の) 子どもたち。
- 低所得国の 12 歳未満の子どもの半数以上が極度の貧困状態で暮らす。

■教育とジェンダーの平等

◆前進

- 多くの国で、子どもの就学率と生存は、最貧困層でより改善した。
- 1999 年から 2012 年の間に学校に通えていない初等教育就学年齢の子どもの数は 1 億 600 万人から 5,800 万人に減少した (1990 年は 1 億 400 万人)。
- 世界的な平均値では 93% の初等教育就学年齢の子どもたちが学校に通えている。すべての地域で男女の初等教育就学率の格差は縮小した。
- 2015 年には、データが入手可能な国の中、69% の国が初等教育レベルでのジェンダー平等を達成する見込み。

◆しかし依然として…

- 最貧困層の子どもたちは最富裕層の子どもと比べ、最低限の読解能力を身につける可能性ははるかに低い。
- 最富裕層の初等教育就学年齢の子どもより、最貧困層の子どもの方が、学校に通えない可能性が 5 倍高い。西アフリカと中央アフリカでは、6 倍高い。
- 男性の若者より女性の若者の方が、読み書きできない可能性が 1.7 倍高い。

◆このままでは…

- サハラ以南のアフリカの最貧困家庭のすべての女の子が前期中等教育を修了できるようになるには、ほぼ 100 年 (2111 年まで)かかる。

■ 5 歳未満児の死亡

◆前進

- 世界の 5 歳未満児死亡率は 1990 年から半分以下に減少した。 (出生 1,000 人あたり 90 人から 43 人に)

◆しかし依然として…

- 進展がある一方で、2015 年中におよそ 600 万人の子どもたちが 5 歳の誕生日を迎える前に命を落とし、その原因の多くは予防可能なものである。
- サハラ以南のアフリカ地域では、高所得国の子どもたちに比べ、5 歳未満で亡くなるリスクが約 15 倍高い。
- 最貧困層の家庭に生まれた子どもは、最富裕層の家庭の子どもに比べ、5 歳になる前に命を落とす可能性が平均しておよそ 2 倍である。
- 1990 年に比べ、新生児期の死亡は、5 歳未満児死亡数の中でより多くを占めている。 2015 年末までに、およそ 100 万人の子どもたちが、生まれたその日に亡くなると予測される。

◆このままでは…

- このままの削減率では、“2015 年までに 5 歳未満児死亡率を 3 分の 2 削減する”という MDGs の目標を達成するには、更に 10 年以上必要である。

■ 妊産婦の健康

◆前進

- 1990 年以降、妊娠婦死亡率は 45% 減少した
- 妊産婦死亡率における低所得国と高所得国の格差は、1990 年から 2013 年の間に半減した。 (高所得国より低所得国の方が 38 倍高い状況から 19 倍高い状況へ)

◆しかし依然として…

- 世界的に見て、1 日に 800 人の女性が、妊娠・出産における合併症により命を落としている。
- 現在、専門技能者が付き添い出産する女性は、最富裕層の女性と最貧困層では 3 倍の差があり、これは 2000 年から変わっていない。
- 西部・中部アフリカの 15 歳の女の子の 30 人にひとりは、妊娠婦死亡の生涯のリスクを抱えている。 = 西部・中部アフリカの 15 歳の女の子の 30 人にひとりは、生涯の中で妊娠関連の原因で命を落とす危険がある。

■ HIV／エイズ

◆前進

- 2001 年以降、新たに HIV に感染した 15 歳未満の子どもが 58% 減少した。

◆しかし依然として…

- 2013 年に新たに HIV に感染した 15 歳以上の 190 万人のうち、67 万人が 15~24 歳の若者。 25 万人が 15 歳から 19 歳の若者。

- エイズにより孤児となった子どもの人数は 1,770 万人に近く。
- 2013 年、低中所得の国で HIV と共に生きる 15 歳未満の 23%が抗レトロウイルス療法を受けた。

■水と衛生

◆前進

- 1990 年以降、約 26 億人が改善された飲料水源を利用できるようになった。
- 21 億人が改善された衛生施設（トイレ）へのアクセスができるようになった。

◆しかし依然として…

- 世界では 9% の人が改善された飲料水源を利用できない。
- 世界の 7 人にひとり、9 億 4,600 万人が屋外排泄をしている。そのうち 10 人に 9 人は農村部に暮らす。

◆このままでは…

- 15 年後、5 億人（米国の人口よりも多い）が依然として屋外排泄をしており、子どもの健康に深刻なリスクを与えていることが予測される。

(2015 年 6 月 19 日 日本ユニセフ協会広報室 作成)